2023 年度
常磐大学 海外研修（台湾）報告書

研修先：敏實科技大学
Minth University of Science and Technology

研修期間：2023 年 9 月 11 日～18 日

2023年度 台湾研修日程表

	日付	時間	実施内容	食事	宿泊先
1	9月 11日(月)	午前 午後	成田空港 (9:25発) CI107便 ⇒ 桃園国際空港 (12:10着) ＜高速鉄道＞ 桃園駅 (14:34発) ⇒ 新竹駅 (14:45着)	朝・昼・夕	新竹楽群会館
2	9月 12日(火)	午前 午後	歓迎式、校内案内 AIに関する学習	朝・昼・夕	新竹楽群会館
3	9月 13日(水)	午前 午後	中国語の勉強（2時間） 中国料理の学習、スポーツ交流	朝・昼・夕	新竹楽群会館
4	9月 14日(木)	午前 午後	中国語の勉強（2時間） 新竹サイエンスパーク見学	朝・昼・夕	新竹楽群会館
5	9月 15日(金)	午前 午後	中国語の勉強（2時間） 新竹県の内湾、愛情駅、北埔（客家の村）見学	朝・昼・夕	新竹楽群会館
6	9月 16日(土)	午前 午後	（朝）敏實科技大学出発 ＜高速鉄道＞ 新竹駅（9:08発） ⇒ 台北駅（9:39着） 到着後、台北市内研修	朝・昼・夕	第一大飯店
7	9月 17日(日)	午前 午後	（終日）台北市内研修	朝・昼・夕	第一大飯店
8	9月 18日(月)	午前 午後	（朝）台北市内　⇒　桃園国際空港へ移動 桃園国際空港 (12:40発) CI104便 ⇒ 成田空港 (16:55着)	朝・昼・夕	

台湾研修

人間科学部 I さん

1.はじめに

私が台湾研修に参加したきっかけは，海外の異文化に触れてみたいと思ったからだ。私は海外という自分の言語の言葉が通じないところに行くのが怖いと思っていたので，このまま日本から出ないで過ごすとずっと思っていた。しかし，先生から海外でも比較的行きやすい台湾の研修があると聞いて，私は海外にとても強い興味が湧き，自分の中の常識や価値観を変えられるかもしれないと思い海外研修に参加した。海外研修に行くにあたって一番気になったのは海外の雰囲気だ。日本はきれいやマナーがいいとよく聞くが，実際に海外と比べてどうなのか，海外の雰囲気とどう違うのかなどを調べたいと思った。

2.事前研修の内容

事前研修では駅構内や地下鉄での飲食の禁止，外食文化，トイレットペーパーは流さず隣のゴミ箱に捨てるなど台湾との文化やマナーの違いなどを知ることができた。しかし，調べて知識として知っているだけでなく実際に目で見て肌で感じてじゃないとわからないこともたくさんあるので，台湾に行ったら台湾と日本でどのくらい常識や雰囲気が違うのかを体験して調べたいと思った。

3.研修中に調べたこと

実際に台湾に行って感じたのはバイクに乗っている人が想像以上に多いということだ。バイクが多いことは事前に調べて知っていたが，信号待ちや街中にバイクがたくさん止めてあったり，台湾でお世話になった大学の生徒でバイクに乗っている人が多かったりと日本では感じられない異文化を体験でき，ここは日本ではないのだなと改めて実感した。

そして，お店などでご飯を食べたとき，日本と比べて出される量がすごく多く感じた。日本では食べきった方が礼儀良いとされる文化だが，台湾ではご飯を食べ残したほうがマナーが良いということになる文化なので，お店では客人が食べきれないほどのご飯が出てくるのかなと調べていて思った。テーブルに食べた肉の骨や貝の殻を捨てるほうがマナーが良かったり，お店でご飯を注文するときの最低価格などがお店によって決まっていたりと，食に関するマナーや文化の違いは体験していてとても面白いと感じた。

4.まとめ

文化やマナーは国や地域によってことなるもので，私たち日本人からしたら驚くようなことでも，他では常識だったり礼儀正しかったりする。知識として知っているだけだと，実際に日本で外国人と出会ったときに非常識だとかマナー違反だと思ってしまうかもしれない。しかし，私は実際に体験して本当に常識とは場所によって全く異なるとことを知れた。このことを忘れないでこれから生活していきたい。

自分の中で外国は，英語やその国の言語が話せないと意思疎通ができないものだと思っていた。しかし，台湾では Yes や This one などとても簡単な英語や，指をさしたりうなずいたりと簡単なジェスチャーでも意外と会話や買い物ができた。そして，台湾の人と会話するとき，相手はゆっくりとはっきりした言葉で話してくれたし，台湾にも日本語を話せる人がいて，自分が日本語を話すときは，とてもかみ砕いた日本語で話すよう心掛けた。今回の台湾研修では，外国人に対しての接し方，特にやさしい日本語の話し方などを学べたし，自分の中の海外の人との意思疎通は難しいという固定概念を取り払ってくれた。今後，街中やお店の中で外国人と話すことになったとき，外国人だからと初めから意思疎通をあきらめないで翻訳を使ったり身振り手振りしたりなどで頑張ってコミュニケーションをとってみようと，そう思わせてくれるような，一生の思い出となるとても楽しい台湾研修だった。

台湾研修事後課題

人間科学部 S さん

1.はじめに

私が台湾研修に参加した理由は、いくつかあります。まず、現在大学ではケビンゼミナールに所属し、主に英語を使いながら英会話や異文化理解について学んでいます。さらに私自身、高校生の時から異文化理解や国際交流について関心があり国際交流が出来る機会には積極的に参加していました。そのような経験を経て、実際に他の国へ訪れ各国の食文化、生活文化、言葉、街の雰囲気など日本との様々な違いを目で見て感じてみたいと考えていたため、今回の台湾研修に参加しました。台湾研修で身につけたいと思っていたことは、初級レベルの繁体中国語と自分の英語力に対する自信です。大学 1 年次に大学で開講されている中国語 I という科目は履修したことがあり、挨拶と自己紹介程度であれば話すことは出来ましたが、例えば買い物をする時やレストランなどで注文する時などの日常的に使える言葉を知らなかったので台湾研修に参加する 1 週間で出来るだけ多くの単語に触れる事ができるように努力しようと考えていました。また、私が中国語で会話をすることができないため現地の学生や先生方と話す時は、翻訳アプリか英語での会話になると考えました。現在、私は大学で英語を勉強しているため台湾にいても少しでも長く英語を使う時間が欲しいため、英語を話せる方とは英語で会話し、自分の英語力の底上げと自信に繋げようと考えました。台湾研修期間中に調べたいと思ったこととしては、台湾で走っている車はどこのメーカーが多いのか、台湾と日本では車やバイクの乗り方等にどのような違いがあるのか、そして交通量です。日本で乗られている車の多くは国産車が多く主にトヨタ、ホンダ、スズキ、日産、マツダ等が多く、次いでメルセデスベンツやレクサス、ＢＭW等のいわゆる高級車がほとんどです。台湾では、この車のメーカーについてどのような違いがあるのか関心があり、調べようと考えました。また、台湾はバイクの交通量が多いとのことだったので街を歩きながらどの程度のバイクの交通量なのか、日本と台湾ではバイクの乗り方に違いはあるのかなど現地に行かないと分からないような点について調べようと考えました。

2. 事前研修の内容

事前研修では、台湾の車事情について調べました。台湾研修期間中には、実際に目で見て台湾の車事情やバイク事情、交通量について調べたいと考えました。事前研修の際に調べてわかったことは 5 つあります。1 つ目は、台湾の自動車世帯普及率は、ここ 10 年で 58%程度に安定しており、人口 1000 人辺り約 19 人が車を購入しているということ、また、台湾は世界一のバイク大国であるということです。(日本車が台湾市場でシェア 71%をマークする理由とは？/ CAKEHASHI/秋山/ https://tjmw.com.tw/motorshowtaipei/#:~:text=台湾の自動車世帯普及,などが挙げられます%E3%80%82)2 つ目は、2022 年、台湾国内向けの自動車販売台数は合計 42 万台であ

り、そのうち 22.5 万台が台湾で生産された車両で、残りの 19.5 万台は輸入車であり、台湾で生産販売する自動車メーカーの市場シェアに着目すると、TOYOTA を生産する国瑞汽車（Kuozui）が 43%を占め、MITSUBISHI を生産する中華汽車（CMC）が 17%、そして HONDA を生産する台湾本田が 12%のシェアを獲得しており、また、輸入車の市場においては、欧米系高級車の他に、日系の TOYOTA、LEXUS、MAZDA が主要なシェアを占めているということです。（〈台湾 EV 産業特集〉/ PR TIMES/ https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000188.000059899.html#) 3 つ目は、2022 年の交通事故発生後、30 日以内の死亡者数は 3085 人で、前年比 123 人増加し、過去 10 年で最も多かったということです。(2022 年の交通事故死 3085 人、日本の 5 倍相当/ CONSULTING GROUP/ https://www.ys-consulting.com.tw/news/108125.html） 4 つ目は、 2022 年に域内での電気自動車（EV）販売台数は前年比 2.3 倍の 1 万 6,120 台となり、初めて 1 万台を突破し、EV ブランドも 2021 年の 10 社から 16 社まで増加し、域内で販売される域内生産車と輸入車に占める EV の比率は前年の 1.5%から 3.7%に上昇した、また、ブランド別（上位 10 位）の販売台数をみると、1 位はテスラ（構成比 72.0%）、2 位は BMW（6.0%）、3 位ボルボ（4.3%）だった。トヨタ（0.8%）は 9 位、日産（0.7%）は 10 位にランクインしたということです。(2022 年の EV 販売台数が過去最高を更新（台湾）/ JETRO 日本貿易振興機構(ジェトロ)/ https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2023/47185039f263ff83.html） 最後は、Google マップで台湾の EV 充電スタンドを調べて見たところ、多くが台中付近と、關山から光復にかけての海近くに設置されているということです。(EV 充電スタンドの設置場所/ Google Map）現地では、車とバイクの多さ、歩行者が歩く道の狭さ等を実際に見て調べようと考えました。また、確認できる範囲になってしまいますが、どのメーカーの車が多いのかも気になるため、確認しようと考えました。

3. 研修中に調べたこと

研修中に調べたことは、台湾の車事情やバイク事情、交通量です。事前研修で調べてわかっていたように、新竹や台北で走っている車の多くはトヨタや日産、三菱などの日本車やベンツやレクサスでした。台北で走っている車の中には、日本で見たことのないメーカーの車も走っていましたが、ほとんどは新竹も台北も日本車が多く見られました。

台湾は、バイク大国でもあるため町中は多くのバイクが走っていました。原付バイクや排気量の少ないスクーターに２人乗りや３人乗りをすることも珍しくなく、日本では見ることが出来ないような光景でした。台北の観光地では、車やバイクは路肩に止められている場合が多く、歩行者が歩く道が狭くなっているうえに、バイクや車の交通量も少なくないため周りに注意しながら観光する必要があり、小さい子供やお年寄りの方たちにとっては危険だと感じました。

4. まとめ

台湾研修に参加して、実際に現地に行くことで食文化や生活の仕方、言葉など日本と違うさまざまな部分を体感することが出来ました。新竹の大学で中国語を学び、学んだ中国語と翻訳アプリを使って現地の学生と会話することで英語と日本語以外の言語で会話をすることの面白さと外国語は勉強すれば話せるようになるという自信を実感することが出来ました。また、英語を話せる学生とは英語で会話しましたが、簡単な英語でも会話が成り立つことを体感し、必ず正しい英語や文法を使う必要が無いということも実感させられ、自分の英語力に対する自信になりました。現地の学生たちは、みんな日本のことが大好きで中国語を話すことが出来ない私にも積極的に話しかけてくれました。そのような積極的に話しかけてくれる面を見て、私自身も今後、国際交流や新しいコミュニティで生活していくうえで、その積極性を参考にしていこうと思いました。

台湾事後研修課題

人間科学部 O さん

1.はじめに

台湾研修に参加したきっかけは、大学で中国語の講義を受講していて、実際に話しているところを見てみたいと思った。声のトーンや速度、表情や身振り手振りを感じることで中国語への学びが深まると考えた。

研修において、台湾の食文化について調べたいと思った。特に台湾から見た日本に興味を持った。台湾の人からは日本がどう見えているのか、台湾の人の日本のイメージはどんなものか、日本が統治していた時代の名残があるのか、気になった。

2.事前研修の内容

事前研修の際に調べてわかったことは以下の通りである。

25～35 歳の台湾人の 1 週間の外食頻度は、週に 1～6 回の人が全体の約 36%、週に 7～15 回の人が全体の約 30%、全て外食という人が約 18%、全く外食をしない人は 6%と外食文化がかなり浸透している。毎月外食にかける費用は、約 7,100 元という結果が出ている。

「吃喝玩樂」という言葉がある「呷飯皇帝大（食べることの地位は皇帝のように高い）」という諺があり、また「王以民為天、民以食為天」と言って食事は大事なものだという意識が高い。「医食同源」という思想から冷たい食事を好まない。料理は見栄えよりも味と質と量を重視する。気に入ったものをリピートする傾向がある。生ものを食べる習慣がない。「素食家」は肉と魚を一切食べない。牛肉を食べない人が多い。箸とレンゲを使う。麺類など音を立てて食べるのは厳禁である。

日本では好ましくないけれど、台湾では良いことは箸と箸で食べ物を渡す「はさみ箸」、おかずに箸を刺して取る「刺し箸」、箸をなめる「ねぶり箸」、食後のゲップ、箸の持ち方が自由、箸を縦向きに置くことである。

日本人から見ると台湾料理は脂っこいものだ。炒め物が多い上、お弁当などには揚げものが入っていることが多い。また、八角や香菜など香りの強いものや、「當歸麵線（当帰ソーメン）」「藥燉排骨（豚バラ薬膳煮込みスープ）」など、漢方の材料を使った料理が特徴的である。しかし、すべての料理に強いクセがあるわけではなく、一般的な「小吃（シャオチー。屋台や小さな飲食店など）」料理は、醤油ベースの落ち着いた調味のも多く、幅広く楽しまれている。

名前が同じでも日本のものとだいぶ違うものがある。台湾で「天ぷら」は、魚の練り物でできた揚げ物を指す。寿司は酢飯を使っていないものも「寿司」と呼ばれることがある。台湾の「味噌汁」は日本のものと比べて甘くて薄い。そして、出汁を取ったかつお節がそのまま具材として生かされている光景もよく見かける。「マヨネーズ」は沙拉醤と呼ばれていて、たくさん砂糖や糖類が含まれているため、とても甘いのが特徴である。コンビニで売っていたり、レストランで提供

されたりする「お茶」も甘い。しかし、台湾で食べる甘味は日本のものに比べると甘さ控えめが多い。日式拉麺は薄味でコクが物足りず、スープも熱々ではない。また、トッピングにはエリンギやヤングコーンなど日本のラーメンではあまり見たことのない驚きの具材が乗せられていることもある。海鮮丼はごはんにふりかけがまぜられている。手巻寿司はごはんが入っておらず、千切りキャベツと具を入れて巻いてある。冷奴はゴマドレッシングがかかっている。ゴマ豆腐と称されている。

食事として日常的に親しまれているのは、庶民的な「滷肉（豚ひき肉や脂身を醤油ベースで煮込んだもの）飯」や、ちょっと豪華な「牛肉麵」、シンプルな「擔仔麵（エビやもやし、香菜、煮卵などが載った台南発祥の麺）」などがある。

スナック的なグルメも夜市や屋台で人気を博している。牡蠣入りオムレツを甘辛く調味した「蚵仔煎」、台湾式フライドチキンの「雞排」、風味が独特な煮込み料理の「滷味」などがある。スイーツはパールミルクティー、愛玉ゼリーや仙草ゼリー、「豆花（甘くした豆腐に近いデザート）」などがある。

朝ごはんは中華風の豆乳と「蛋餅（薄い生地と卵を焼き、甘辛醤油で食べる伝統的な料理）」も、洋風のサンドイッチやトーストもある。また、東南アジア料理や韓国料理、日本料理も、ごく普通に街中に見受けられる。

台湾で調べたいと考えたことは、日本と同じ名前の食べ物である。また日常的に食べられているものや夜市に並んでいるもの、スイーツについても併せて食べてみたいと思った。

3.研修中に調べたこと

研修中に気づいたことは、くら寿司、モスバーガー、ラーメンまこと屋、ファミリーマートなど日系企業が多く進出していること、同じ商品でも台湾のものの方は価格が高いことが分かった。

日式のお店や商品が多かった。夜市にはマヨネーズが少しかかっているたこ焼きが売られていた。「天ぷら」は日本のような衣に包まれてはおらず、魚の練り物のサクサクした揚げ物だった。

台湾の落雁は日本のものと違ってしっとりとしていた。阿里山高山茶は甘い香りがして飲みやすかった。ホテルの朝食のバイキングで「鶏そぼろ」と日本語で書かれていたものはとても甘く、砂糖がジャリジャリとしていた。

「豆花」はプリンのようにプルプルですっきりとした甘さが食べやすかった。「鴨血」はそれ自体には味がなく、食感はプルっとしていた。

茶色い、揚げ物が多かった。野菜は茹でるなどの調理がされていて、生のものはなかった。お弁当箱にぎゅうぎゅうにおかずが詰まっていた。

4.まとめ

日本に友好的な人が多く、食べ物も日本のものと近く、馴染みのあるチェーン店が立ち並んでいて旅行しやすいと感じた。道に迷ったときに親切に声をかけてくれたり、日本のことをよく知っている人がいたりした。大学で同じ授業を受けただけなのに仲良くしてくれて、街を案内してくれた。外国語が出来ないなどではなくて、困っている人がいたら、わたしも声をかけてみようと思えた。自国のことを知っているというのはうれしいと感じ、わたしもいろんな国について学び、自国のことをより知りたいと思った。建物をリノベーションしたり、商店街に活気があったり、バスの中でカラオケをしていたり、古き良きものに新しいものが融合されていると思った。

参考文献

国土交通省. 2.台湾. https://www.mlit.go.jp/common/000116953.pdf ,(閲覧日:2023 年 8 月 23 日)

堤緑華.台湾料理の特徴って？台湾の食文化. https://theryugaku.jp/2032/amp/ ,(閲覧日:2023 年 8 月 23 日)

津山香織.台湾人と外食の深い関係とは？日本と異なる外食意識とコロナ以降の最新市場. https://japan.thenewslens.com/article/2897/amp ,(閲覧日:2023 年 8 月 23 日)

山下くるみ.台湾と日本の食事マナー. https://japan.thenewslens.com/article/2551/amp ,(閲覧日:2023 年 8 月 23 日)

台湾の「日式」とは？台湾日本料理店あるある. https://japan.thenewslens.com/article/2282 ,(閲覧日:2023 年 8 月 23 日)

「日式」には気を付けろ！台湾と日本では味やモノが違う和食グルメ. https://clubtaiwan.net/blog/2018/02/04/food-taste/ ,(閲覧日:2023 年 8 月 23 日)

台湾研修事後課題

総合政策学部 Iさん

１はじめに

私が台湾研修に参加した理由は海外に行ったことがなく、行きたいと考えたからです。元々、海外には興味があり、この大学生活が終わるまでに１回は海外に行きたいと考えていました。しかし、2020年に流行したコロナウイルスの影響で海外に行くことができず4年生になってしまい、そんな中、ゼミの担当でもある中岡先生から台湾研修に行ってみないかと声をかけていただき参加することになりました。そして、台湾を選んだ理由として、英語以外に簡単に語学を身に付けることができる場所に行きたいと考えており、日本と同じく漢字を使う台湾に決めました。他にも、台湾ではお茶やタピオカ、かき氷、夜市の屋台など食文化が豊かなイメージがあり、台湾の食べ物を現地で食べて見たいと思いました。

私はこの台湾研修で、台湾で使う中国誤を簡単な自己紹介を言えるようにすることや、日本と違う食文化やカフェ文化について、日本と建造物の違いについて調べていきたいと思いました。

２事前研修の内容

私は事前研修前まで中国語をあいさつ程度でしか言えず、自分の名前も言えなかったのですが、事前研修をし、名前や挨拶、台湾の歴史について学びました。台湾で使う中国語は想像していたよりも発音が難しく、発音にも4種類ありました。中国語は難しかったのですが、漢字を使うという点では、日本語と似ており、事前研修後は文字を見るだけで意味が読み取れるようになりました。

また、台湾の食文化についてとても興味があり、歴史を踏まえ調べたいと考えました。事前研修では台湾料理は淡泊な味付けや甘い味付けが多く、日本人にとってとても食べやすい食べ物があることや脂っこい食べ物が多くあることを知りました。他にも、台湾では外食が安いため、外食文化が多く定着しており、屋台などが多く立ち並ぶ夜市文化が発展していることがわかりました。

このことから、台湾研修では実際に台湾での食事を通して、食文化について体験し、日本との違いについて明らかにし、理解を深めていきたいと考えました。

３研修中に調べたこと

まず、今回の研修で調べたことは台湾の食文化についてです。台湾では夜市が特に有名で観光地にもなっています。この研修で夜市に行き、左の写真の鴨肉飯というものを食べました。この鴨肉飯では、鴨肉が骨ごとカットして入っており、他の肉料理でも骨ごと入っていることが多く、日本との違いに驚きました。味などは事前研修で学んだほのかに甘いような味がし、香りは香辛料のにおいが強く感じ、日本との違いを感じました。

実際に現地で食事をすると、自分が思い描いていた味とはかけ離れていて、衝撃をうけました。特に臭豆腐は想像以上に独特な香りをしており、日本料理にはない香りでとても驚きました。２回ほど行った夜市では、どのお店でも定番の台湾料理である臭豆腐やタピオカドリンク、ジーパイが売られており、雰囲気は同じであったが、散策して行くうちに少しずつ違う雰囲気だと感じました。一つ一つの店舗の店員の人柄や雰囲気が夜市全体の雰囲気を少しずつ変えているのではないかと考えました。

次にカフェやお茶についてです。台北に行った際、カフェが多いという印象を感じました。カフェでは日本と同じようにケーキやカフェオレなどがあり、日本と似ていると気づきまいた。お茶は、基本的に甘く衝撃をうけました。コンビニエンスストアにあるものも甘く、台湾の方に聞いた話では、台南のほうに行くにつれて甘さが増すと話していました。また、日本でいうお冷が温かい紅茶の飲食店も多くあり、日本と違う食文化とわかりました。他にも、お茶が有名な九份に行き、お茶の入れ方なども体験しました。九份のお茶では初めは香りを楽しむことや、お茶を入れる回数によりお茶をおく分数を変えたりすること、お菓子と一緒にお茶を楽しむことなど、京都の日本茶と同じようなものを感じました。

４まとめ

　今回の研修で日本と台湾は国は違うけれど、似た部分が多かったのではないかと考えました。話す言語は異なりますが、漢字を使うこと、食べ歩き文化があること、お茶を味以外でも楽しむことなど日本と似た部分を感じました。しかし、イメージから少しかけ離れた部分もあり、他の国の食文化などに触れる機会が少なかった私にとって、とても貴重な体験になったと感じました。

　また、今後海外に行く際には、日本と比較するだけでなく台湾で感じたことも比較していきたいと思います。

台湾研修事後課題

総合政策学部 K さん

1. はじめに

もともと国際交流に興味があったものの、コロナ渦でなかなか挑戦できずにいましたが、5 類感染症に引き下がり、ゼミの担当でもある中岡まり先生からお誘いを受け、今回の台湾研修の参加を決めました。

研修前に中国語で自己紹介ができるようにするという目標を立てました。また、私は本が好きなので台湾の書店や図書館について調べたいと思いました。

2. 事前研修の内容

事前研修では台湾の書店や台湾で売れている本について調べました。台湾には日本のトーハンや日販のような全国規模の書店取次はないということに驚きました。

また、実際に台湾の書店を見に行き、日本との違いを明らかにしたいと考えました。

3. 研修中に調べたこと

研修中に調べたこと、気づいたこと

敏實科技大学の図書館を見学させて頂いた際に、気づいたことがいくつかありました。1 つ目は漫画が置いてあることです。現在、常磐大学の図書館でアルバイトをしているのですが、漫画は今のところ見かけたことがありません。2 つ目は、図書館なのに書籍が少ないことです。敏實科技大学図書館職員に話を伺ったところ、電子書籍の普及が進んでおり、学生はスマホやタブレットで本を読むことが多いそうです。書籍が少ないと強く感じました。

また、台北観光の際に誠品書店に行きました。誠品書店は台湾の大型書店チェーンであり、日本にも上陸している人気の書店です。特に日本の雑誌が多くて驚きました。日本文学の棚も設置されており、台湾の言語に訳されたタイトルを見るのが面白かったです。特に村上春樹のスペースが広めでした。

4. まとめ

研修で自分が得たこと（出来るようになったことや、新たに気づいたことなど）。
今後の生活の中でどのように活かせられそうか。

研修中にみんなの前で自己紹介をするというテストが課され、日本人学生と特訓したおかげで成功することができました。

また、台湾研修で培った「視野の広さ」を仕事で活かしたいと考えました。日本では当たり前だと思っていたことが、台湾では当たり前ではないといった文化の違いや習慣の違いを感じることができました。多様性を受け入れることで多角的なものの見方ができて視野が広がったのではないかと考えたため、その強みを同僚や顧客とのコミュニケーション、会社でのプレゼンなど様々な場面で活かせるようにしたいです。

台湾研修事後課題

総合政策学部 Kさん

1.はじめに

私がこの台湾研修へ参加しようと思った動機は、学生のうちに海外へ行ってみたいと思っていたからです。初めて海外へ行くのなら台湾は行きやすい国であると聞いたことがあったことや、卒業論文でファストフードについて書きたいと思っているため日本と比較できる様に台湾のファストフード事情について調べ日本のファストフードとの違いを自分自身の目で確かめ、信憑性を高めたいと思ったからです。また、この台湾研修では現地の大学でお世話になる日数が多かったため、挨拶や簡単な単語といった中国語を身に付けたいと考えていました。卒論で使用するためのファストフード事情について実際に店舗へ行きメニューや味、金額の違いなど調べたいと思いました。

2.事前研修の内容

わたしは事前研修の際に台湾の主流となっているファストフード店を調べました。台湾で展開されているファストフード店はKFC、サブウェイ、バーガーキング、モスバーガー、台湾発祥の頂呱呱（TKK）や丹丹漢堡（ダンダンハンバオ）などがあり、その中でも最大のシェアを誇っているのがマクドナルドであると言うことが分かりました。台湾にマクドナルドが進出したのは、日本進出から13年後の1984年であり、同年1月28日に台北市の松山空港の近くの企業ビルが並ぶ民生東路沿いに1号店が開店し、この1号店は現在も健在です。日本では「マック」や「マクド」と呼ばれていますが、台湾では「麥當勞（マイダンラオ）」と呼ばれています。これは広東語の当て字で広東語では「マックダンロー」と英語に近い発音になるようですが、その当て字が台湾においてもそのまま使われています。また、以前は台湾でも日本と同じようにプラスチック製のストローが提供されていましたが、環境保護の観点から廃止する流れになりました。台湾のマクドナルドでもストローは提供されなくなり代わりにリッド（蓋）に直接口を付けて飲めるようにしています。また、日本と台湾のファストフードの違い(味、量、値段)などを調べたところマクドナルドは店舗の様子はあまり日本と変わらず、注文の仕方や受け取り方は一緒であり、値段も日本とそこまで変わらないと言うことが分かりました。しかし、台湾のマクドナルドでは日本には無いフライドチキンやさつまいものフライドポテトと言うものも販売されており、日本では頼まなければ貰えないケチャップもほぼ必ずつけてもらえるという違いがあります。その中でも1番異なっていることはドリンクのサイズです。日本ではMサイズ325mlのところ、台湾では618mlとなっていてサイズ感が大きくなっています。また、Aの商品を買うとBの商品が貰えるチィエンシンカ

ーというカードが49元(200円弱)で購入する事ができ、期間中であれば何度でも使えるカードがあるということが分かりました。以上を踏まえて、台湾で最大のシェアを誇っているマクドナルドへ行ってみたいと思いました。日本とサイズが異なっているというドリンクを実際に頼み、現物を見てみたいと思いました。

·mediageneMUU.https://japan.thenewslens.com/article/2599#:~:text=台湾で展開されて,いるのがマクドナルドです%E3%80%82

・ TAKUラオバン.https://taiwanizyuu.com/taiwanmaidanglao/

3.研修中に調べたこと

私が研修で調べた事はファストフード店のメニューの違いです。注文をし、飲食が出来るタイミングはなかったですが、モスバーガー、ミスタードーナツ、マクドナルド、バーガーキングのメニューを見ることができました。どの店舗もメニューが大きく異なっていることはなく、日本よりメニューが少し多かったり、日本には売っていないドリンクやバーガーなどのメニューがありました。なかでも、ミスタードーナツでは、6つ買うと3つ貰えると言う制度を行なっていてとても魅力的に感じました。マクドナルドには実際に行き、購入することが出来ました。事前学習の時にマクドナルドの購入方法は日本と同じであると学びましたが、実際行ってみると場所によって違うのかもしれないがタッチパネル式で注文方法が異なっていました。また、日本にはないベーグルを使用したバーガーがあったり、ドリンクにも日本とは異なる物がありました。日本ではCMにもなっているぐらい人気の高いハッピーセットがあるが、台湾のマクドナルドには無かったです。料金も日本より少し安かったです。事前学習で学んでいたドリンクを頼むことができ、セットでMサイズを頼んだが日本のLサイズよりも大きく感じました。台湾は飲み物のサイズはどこの店舗へ行っても大きく魅力的であると感じました。レートも関係してくると思うが、全体的に日本より安くサイズが大きいと言う事を学ぶ事ができました。

4.まとめ

今回の研修で得たこととして、現地の大学で学んだ自己紹介など簡単な中国語や駅のホームなどでは飲食が出来ないこと、全てにおいてリサイクル意識が高く、分別がとても難しく日本とは違う注意点を知ることができました。また、日本ではご飯と一緒に食べることが多い餃子ですが、おかず扱いはされないと言うことや一食一食がとてもボリューミーであり、値段が安いということを知ることが出来ました。夜市以外にも売店が多くあり、毎日開催されているお祭りのように感じました。新竹でお世話になっていた時は食べた事のない地元の方向けの食べ物が多く感じましたが、台北などに向かうと日本語が話せる方が多く、食も日本人向けに作られているように感

じました。飲食店ではお冷と言うものはなく、暖かいポットに入ったお茶が出てくるというところがお茶が有名な産地ならではであると思いました。台湾で学んだ自己紹介やデザインがたくさんありコンビニで購入する事ができる悠遊カード、美味しいお茶の淹れ方など今後社会に出て改めて自己紹介をする機会が増えるので豆知識として披露するように活かす事ができると思いました。

台湾研修を通して

総合政策学部 T さん

1. はじめに

私が今回台湾研修に参加したのは、昨年度韓国研修に参加し現地の学生と交流したり、実地で環境や空気の違いについて触れたりした際に経験として得られたものが多かったと感じた。そのため 1 回だけでなくまた別の環境でも経験を積みたいと思ったため参加した。この研修にて現地の学生と交流をし、その場だけでなく帰国後も連絡をとれるような友人関係を作りたいと思った。そして現地にて中国語の勉強をするため、台北に行った際に買い物がそれなりにできるようになっていたいと思った。

2. 事前研修の内容

台湾での研修を通して私が調べたいと思ったことは「台湾での"推し活"」についてである。日本ではそこそこの認知度が上がりつつあり、様々なショップで推し活のための道具を販売していたり、グッズを鞄などにつけていたりするのを見る。これは日本から発信された文化であると思われるが、海外ではどのように伝わっているのかが気になった。まず事前の調査にて台湾では日本でいうところのコミックマーケットのような同人イベントが数多く開催されており、コスプレをした人が多く参加するらしい。日本人のコスプレイヤーも多く参加する。コスプレの対象としては日本のアニメであることも多いが、中華系のゲームキャラのものも多く存在する。日本でコスプレの撮影というと列を作り 1：1 で行うが、台湾では 1：多数での囲み撮影を行う。台湾で開催されるイベントの中でもかなり大きいものであるファンシーフロンティアというイベントでは、日本からも声優陣や歌手が出演しトークショーやコンサートを行うこともある。

このように事前調査にて日本のようなコスプレ文化が形を変えて伝わっていることが分かった。しかしこれはイベント事における特別なものであり、日常的に行われているものについてはどのように浸透しているのかがわからなかったため現地にて確認してみたいと思った。

3. 研修中に調べたこと

研修中に台北のアニメイトとアニメイトカフェ、台北地下街を訪れた。台北のアニメイトでは日本のアニメイトとおいてある商品はあまり変わらない印象であった。しかし買い物を終え店から出ようとした際にコスプレをしたまま店内に入ろうとしている 2 人組を見かけた。日本ではイベント以外で公共の場でのコスプレは禁止となっているため、かなり珍しい光景であった。他にも痛バッグとよばれる推しの缶バッチやぬいぐるみを人から見えるように入れて持ち歩く、ものを持っていた人もいた。日本での痛バッグは

一面同じ缶バッチなどで絵柄をそろえているものが主流であるが、ここで見かけたのは各 1 個ずつの配置に気を使ったものであった。アニメイトカフェでは当日に予約なしで入店、注文することができた。中はカフェと言いつつテイクアウトに近く店の 1 階部分にキッチンがあり、2 階部分に机のみ用意してあり立ち食いができるようになっていた。日本では決められた時間帯で予約をとりその時間以外では利用することができないことがほとんどであるため、利用者や利用スタイルの違いを感じた。

台北地下街では日本のアニメグッズの店舗も多く存在していたが、それよりも一番くじの展開やガチャガチャ(カプセルトイ)がとてもたくさん種類があったことに驚いた。どちらも日本よりも数倍はする割高であったが、店舗によっておいてあるものが違った。そしてガチャ専門店、一番くじ専門店が数店存在した。夕方ごろになるとかなりの人でにぎわっていた。

4.　まとめ

研修を通して台湾は親日で有名な通り日本人に対して偏見もなく、かなりフレンドリーであるが日本語を使える人が観光地の中に存在するわけではないことが分かった。現地学生との交流も翻訳機を使うか英語を通しての会話がメインとなってしまったため、少し努力不足であったなと感じた。研究した「推し活」については日本の文化が広まってはいるけれども同様ではなく、その地域に適したものとなっていることがわかった。また台湾では有名なアーティスト(日本でいうアイドル)の選出が少ないため、オタクといえば2次元、というくくりがあるように感じた。

台湾は日本人もよく行く観光地であるし、中国語が完璧でなくてもどうにかなると思っていたところがあったのだが、最低限の言語の知識はあった方が良いように感じた。そのため、現地の学校で学んだ、発音を意識しながら今以上の取得ができるように努力していきたいと思う。

台湾研修事後課題

総合政策学部 O さん

1.はじめに

私が台湾研修に参加したきっかけは、母親に「海外行くのはいい経験になるから行ってみたら？」と勧められてその時のテンションで楽しそうだし確かにいい経験になりそうだなと思ったことがきっかけです。また、海外がどんな所かをテレビや雑誌などでしか知らなかったので、実際にどんなところなのかを知りたいと思っていました。

2. 事前研修の内容

事前研修の際に調べて分かったことは、海外への行き方や持ち込めるものや持ち込めないもの。その他に海外に行くときにもっていったほうが良いものなどです。私は、海外に行ったことがなかったためとてもためになりました。そして、台湾の街並みや雰囲気。その他に台湾のおいしい食べ物や観光地を調べたいと思いました。

3.研修中に調べて分かったこと

研修中に気づいたことは、バイクがとても多いことです。日本で例えるなら自転車のような感じなのかなと思いました。普段私は、このようにたくさんのバイクが並んでいることをあまり目にしないため違和感を感じ、これが海外かと驚きました。次に、信号機が日本より発展しているように感じました。なぜなら台湾の信号機は待ち時間が書いてあったりして分かりやすいからです。他にもなんとなくですが二階建ての建物が少し多いように感じました。スペースを有効に使っていてとてもいいなと思いました。あとは場所にもよるとは思うのですが、なんとなく日本よりも都会に自然が多いように感じました。あとはなんとなくの手ぶりや雰囲気などでコミュニケーションをとることが意外に可能であるのだなと知ることができました。そしてもちろんここは日本ではないなと感じるところはたくさんあるのですが、かなり全体的に日本の雰囲気に似ていると感じました。

4. まとめ

　この台湾研修で私は、普段コミュニケーション能力があまりなかったのですが、以前よりもなんとなくコミュニケーション能力を身につけることができたのではないかと感じました。また、台湾研修に行く前は、海外の行き方をよく理解していなかったのですが、海外に行くときに必要なものや持って行ってはいけないものや飛行機にどのように乗るかなどを知ることができたため海外の行き方を学ぶことができました。今後また海外に行くようなことがあったときに、今回の経験を活かしたいと思いました。

事後研修課題①

総合政策学部 S さん

1.はじめに

海外研修に参加しようと思った理由は、これまで海外に行ったことがなく、大学生のうちに一度は海外を訪れてみたいと考えていたためだ。新型コロナウイルスが蔓延する前は、多くの外国人が日本を訪れている光景を目にし、自分が外国人という立場を体感してみたいと思っていた。海外研修が通常通り実施されることを知り、台湾は海外が初めての人に向いている場所であることを知り、参加を決めた。

調べたいと思ったことは、日本人との服装やメイクの違いである。日本とは気候が異なることや歴史的背景が服装やメイクに与える影響があるのかについて知りたいと思った。

2.事前研修の内容

事前研修で調べて分かったこととして、台湾人はラフな服装を好むことである。台湾人は、服装において快適さや気楽さを重視する傾向があるとともに、バイクでの運転が多いことやスコールの発生することもこのような服装を好むことにつながると考えられている。また、日本人と異なる点として化粧をしないことやスーツを着用する機会が少ないことが挙げられる。台湾の夏は暑く、夏季の期間が長いため、スーツを着用する文化がなく、汗で化粧が崩れることを想定し台湾人は化粧をしないことがある。日本では、化粧をしないで人に会うことをためらうが、台湾人の間でそのような考え方はされていない。

台湾で調べたいと思ったことは、都市部とそれ以外の地域で服装や化粧に違いがあるか否かである。事前研修で調べた際に都市部ではしっかりメイクをしている人や最先端のファッションをしている人も多いと書かれていたため、地域によって違いがあるのかが気になった。また、商業施設を観光する予定もあるため、店内のポップや商品の置き方が日本と違いがあるかについても調べたいと思った。

3.研修中に調べたこと

実際に会った台湾人の服装は、事前研修のときにわかったようにラフな服装の人が多い印象を持った。そのまま運動することができそうな服装の人が多く、快適さや気楽さが重視されているようにみえた。しかし、事前研修時の調べて分かったことと異なる点は、多くの女性がメイクをしていたことだ。日本人に比べるとかなり薄い化粧ではあったが、大学であった女子学生の多くが化粧をしていたと思う。台北市を観光した際には、しっかりと化粧をしている女性もいた。

海外研修であったため、訪問先の学校の先生や施設を案内する人の多くがスーツを着用していた。しかし、スカートの丈が短い点や自分の体格よりもゆったりとしたサイズを着て

いる点が日本とは異なると思った。

商業施設の店内の様子は、日本と同じようにみえた。外からでも店内の様子がわかる点やポップを掲示する点は日本と同じであった。

4.まとめ

この研修を通して気づいたこととして、台湾人は日本人に対してとても親切であることだ。地下鉄の乗り換えのために案内図を眺めていた時に声をかけてくれる人がいることや、食器の返却場所がわからなかった時に手助けしてくれた人がいたことにやさしさを感じた。新型コロナウイルスによる規制が緩和されたことで日本にも多くの外国人が訪れるようになった。そのため、困っている外国人がいる場合には、自分から声をかけるなど積極的に行動して行きたい。